

きれいに暮らす

奈良県スタイルジャーナル

VOL. 09
AUGUST
2019

～きれいな大和川を目指して～



NPO法人環境市民ネットワーク天理

市民・事業者・行政が

「協働」しながら

地域の環境保全に取り組む！



大人と子どもが協力し合って行う「布留川清掃」

「協働」の精神から生まれた 新しい自然保護団体

天理市内の環境保全に関わる市民やボランティア団体、企業活動を営む事業者、そして行政の三者が、日頃から環境に関わる情報交換を行い、互いに連携を図ることを目的に、平成9年に発足した「NPO法人環境市民ネットワーク天理」。理事長の佐藤孝則さんは、立ち上げメンバーの一人。学生時代から自然保護活動に携わり、北海道の博物館で学芸員を務めた後、平成5年に天理大学に教員として赴任しました。

「それまで自分が関わった自然保護団体は、自分たちの主張が100%正しいという考えを前提としていました。しかし、交渉相手と平行線になることが多く、団体としての活動を振り返った時に、自分たちの考えは絶対に



NPO法人 環境市民ネットワーク天理
理事長

佐藤 孝則さん

「Think globally, act locally」(地球規模で考え、地域や身近なところから行動しよう)が、私たちのモットーです。これまでの活動が評価され、環境省から「地域環境保全功労者表彰」を受賞できたことはとてもうれしく思います。

正しいと主張することは間違っているのではないかと自問自答していました。

そんな思いを持って天理大学に赴任した佐藤さんは、ある時、ごみ問題に関して様々な活動を行う「リサイクルクラブ天理」の代表から、天理市で自然保護団体の集合体のような組織をつくりたいという相談を受けました。「新しい組織をつくるなら、是か非か、オール・オア・ナッシングではなく、反対の立場の意見を受け入れられる団体をつくりたい」と思っていました。当時は、世の中に『協働』という言葉が出てきた頃。これからはどんな立場の人とも協力し合いながら、物事を進めていく時代だという意識が芽生え始めていました。そんな時代の流れも感じながら、市民・事業者・行政が同じ目線で議論ができる組織をつくろうと動き出しました。



「川は地域を映す心の鏡」 川掃除が活動の原点

発足までの半年間、新しい自然保護団体の概要についての説明会を月に一回開催。既存の団体から「事業者や行政を入れると、話がまとまらない」といった反対意見もありましたが、丁寧に説明を繰り返すことで理解してもらえたといえます。行政へも佐藤さん自らが出向き、話し合いを重ね、立ち上げ時から天理市の職員も参加することになりました。

活動の第一歩として始めたのが、年に一回春に行う、天理市街地を流れる布留川の清掃。「川は地域を映す心の鏡」というコンセプトのもと、20〜30人からスタート。大手企業から、「社員を参加させたい」という要望などもあり、年々参加人数が増え、ここ数年は平均100人程度多い時は150人を超

えるといえます。生活排水対策が進んだこともあり、水質も改善されてきていることから、子どもたちが川遊びを楽しめる環境も夢ではなくなっています。

川掃除がホタル復活につながる！ ホタルが住みやすい環境を求めて

「川をきれいにすれば、私たちの心もきれいになると信じて、清掃を続けていました。そうしたら、川の周辺にホタルが飛び始め、自然が私たちの活動に応えてくれました」。

それまで、天理市内にホタルがいることは確認されていましたが、多くの市民はそれを知らない状態でした。しかし、川掃除を始めると、布留川の周辺にはホタルが乱舞する光景が見られるようになりました。活動の一環として行う「ホタル観察会」も20回を超え、地域の恒例行事になっています。

「ある時、ホタルの生息地に河川改修工事を行う話が持ち上がりました。その時、行政側に、その場所をそのま

ま残したいと相談すると、独自の調査を行って来て、県内初のホタル護岸をつくることになりました。私たちは、ホタル護岸の先進地に向き、調査を行い、使用するブロックの種類についても検討を重ねました。そのおかげで、今では、ホタルにとって非常に良い環境がつくられています。『保護』と『保全』は、同じ言葉のようで意味は異なります。工事をしてはいけないという『保護』の発想ではなく、人間の生活環境と調整を図りながら自然を守る『保全』の発想で、協働しながら、一つのプロジェクトを進められたことはとても良かったと思います」。

主力事業「水源の森づくり」と 新しい試み「出前授業」

そのほかに、力を入れている活動の一つが、「水源の森づくり」です。平成12年に奈良県を襲った大型台風による風倒木調査が、この活動の始まり。

「他の団体とコラボして、意見交換す



子どもたちが自然への関心を深める「出前授業」

ることも『協働』です。当初は、地域の里山づくりを行うボランティアグループ『木の子村』さんが中心となって行っていました。平成15年から一緒に活動を行うことになりました」。

その翌年から、布留川上流・仁興川（にこうがわ）源流域で植樹活動を開始。それから、十数年が経ち、幼木が生長することによって、地球温暖化を促す二酸化炭素の吸収源となるなど、着実に「森」としての機能を果たし始めています。

近年は、天理市内の小学校から依頼を受け、「出前授業」も始めました。近くの川の流域に生息・生育する生き物について、児童と一緒に調べる「野外調査」は、児童はもちろん、学校側にも好評です。

しっかりとしたビジョンの中で 見据える「これからの目標と夢」

団体発足から22年が経過し、「活動がマンネリ化しているのは否めない」という佐藤さんですが、これからの夢は壮大です。

「私たちの夢は、私たちが立案した、天理市街地と青垣山麓をつなぐ『緑の回廊計画』と関連しています。ニューヨークのセントラルパークのように、街の中に森がある。そんな風景をつくりたいです。天理市街地にある街路樹の一つ、イチヨウの健康度調査も、そのための活動の一つです。今までも急がず、マイペースに活動を行ってきた、それが実を結んでいるので、これからも一つひとつの活動を着実に進めていきたいと思っています」。

理事長の佐藤さんを中心に、「協働」の精神が息づく「NPO法人環境市民ネットワーク天理」。これからもその活動は、地域住民の心の豊かさや笑顔につながることでしよう。



上:その光の美しさを求めて多くの人が集う「ホタル観察会」
下:豊かな自然と水を次世代に残すための活動「水源の森づくり」



天理市街地にあるイチヨウ並木

菩提川を汚さない会

年中花の咲く場所にして 誰もが地元の川を 大切にしてほしい。



秋になると見られる東岸土手の見事なコスモスロード



フェンス沿いに植栽されたユリの花

知る人ぞ知る花の名所を 支えている人たちは

南下する菩提川が西に向かって大きく蛇行したあたり、そこはちよつとした花の名所。川の西岸の遊歩道に設けられた花壇や、フェンス沿いには、ユリなどのいろいろな花々が植栽され緑豊かな川沿いに美しい彩りを添えています。東岸の土手は、およそ300mにわたって、春には菜の花が陽光に映え、秋にはコスモスが青空を背景にゆらめきます。川面を眺めると、少ない水量ながらも、澄んだ水が流れています。



菩提川を汚さない会
代表

中島 康晴さん

流域の8つの町内から、合わせて50名ほどが活動しています。もうじきJRの新駅ができて、菩提川の川筋も付け替えられるそうです。この6月2日には、県選出の国会議員、県会議員、市会議員を迎えて「大安寺西川辺のまちづくり協議会」が設立されました。同協議会の一員として、まちの様子が変化しても変わらず活動を続け、花いっぱい川辺の風景をつくっていきます。

「この春も、NHKの番組、火野正平さんの『こころ旅』がロケに来ていました。花が咲いていると、どこからともなく人が寄ってくる。幼稚園児が遊びに来たり、ハイキングの人たちも連れだってやって来たり。どこで調べてくるのか不思議ですね」。中島康晴さんは、いわばこの花の名所の立役者。

平成24年から「菩提川を汚さない会」の代表として花壇の手入れをし、土手には毎年、菜の花とコスモスの苗を植えています。

ところが、中島さんが代表を引き継いだころには、これほどではなかったとか。「花壇の花は県から提供されますが、それだけでは寂しいので、担当課まで出向いているいろいろ相談しました」。県から得られる公的補助のほか、菜の花やコスモスの苗は、会のメンバーが自分の畑で育てて提供しています。実際のところ「汚さない会」をは



じめ地域の有志の方々の、物心両面からの支えや尽力によって今の姿があるそうです。

記紀万葉に登場する川が 水質で全国ワースト1に

この菩提川は、春日大社の奥にある春日山を源流とし、奈良公園から奈良市の中心市街地を流れ、大和川水系の佐保川へと合流しています。万葉集の中では率川として詠われ、古事記、日本書紀等にも記述の残る歴史ある河川です。

しかしながら、流域での市街化が進み、生活排水や工場排水などの汚水の流入によって、水質が悪化。平成20年度には、ついに、環境省発表の全国1871河川の、水質ワースト1という不名誉な称号を与えられてしまいました。

萩本欽一さんのテレビ番組が汚名返上の活動を加速

こうした川の汚れについて、地域に住む人々の間でも問題となっていたところ、平成22年6月、NHKの番組「欽ちゃんのワースト脱出大作戦」から、菩提川を「日本で一番汚い川」として取り上げたいとのアプローチがありました。

番組による取材も刺激となって、菩提川の水质改善に対する住民の気運が高まります。県も巻き込んで盛り上がり、翌7月には「菩提川を汚さない会」が発足。地域と行政がともに、水质改善への取り組みを進めることとなりました。

その後行われた菩提川の河川清掃に、当時は自治会メンバーとして参加した中島さん。「ごみというよりは廃棄物。自転車や自動車のタイヤ部品だとか、毛布や布団などが川に放り込まれていて大変でした。今は随分ときれいになりました。きれいになると汚しづらくなったのか、ごみを捨てる人もほとんど見かけません」。

河川清掃は、現在も毎年4回、実施されています。ワースト1の頃にはBOD※が12もありましたが、生活排水対策が進んだこともあり、

今では環境基準値の5を下回る3.7まで水质が改善され、メダカやドジョウも泳いでいます。

※BOD：Biochemical oxygen demandの略。生物化学的酸素要求量。水の汚染を示す指標の一つ。値が小さい方が水质は良い。

活動を続けることで啓発と抑止効果も

清掃で効果を上げる一方、県からの助成を得て、水质改善を啓発するツールも制作。オリジナルの幟と立て看板を川沿いに設置し、活動に賛同する家に掲げてもらう小旗も配付しました。

「看板は色もあせずに長持ちして、今も15カ所に立っています。ここに描かれているキャラクター『BOD AIくん』は、町の子どもたちから募集してプロの方に図案化してもらいました。募集によって、子どもたちが地元環境を少しでも考えてくれたかなと思います」。また、花壇の花の植え替えを子どもたちに手伝ってもらうことが、保護者の皆さんへの啓発や、参加意識の広がりにもつながっています。



会の発足時に作った立て看板

しかし実際に川の水量を増やすなど、直接的な水质改善はできないのが歯がゆいところ。そこで、「アクリルタワシの作り方を地道にお伝えしています。そのほかにもいろいろ工夫をして、『洗剤の使用量を減らして水を汚さないようにしましょう』というキャンペーンは続けています」。

一方で、会の存在そのものが、思わぬ効果を生んでいます。ほとんど毎日のようにメンバーの誰かが、花壇の手入れや、土手での草刈り、苗植えなどの作業をしていますから、いわば常に菩提川の環境見張り番がいる状態。ごみを捨てるなんて、とんでもない！存在や活動が目に見えることで、菩提川の環境を悪化させないための抑止力になっているようです。

若手メンバーももうすぐ加入 世代交代にも希望が

現在の主要メンバーは、仕事をリタイヤした人がほとんど。中島さんもまだまだ現役とはいえ、もう82歳です。当面の課題は世代交代。そこに明るい兆しも見えてきました。「自治会に30代半ばの熱心な方がいるので、ぜひ一緒にやっついていこうと誘っています。若い人が入ってくると、周りも変わりますから。いろいろ伝えて世代交代し



遊歩道に設けられた花壇



毎年行っているコスモスの苗の植え付け

ていきたいです」。近ごろは、地域の若い世代が少し増えてきた印象もあるとか。「他所からこの地域に来る人たちが、昔からの状態に慣れてしまった住民よりも、かえって環境に対する意識が高かったりします」。そういう新しい力を「汚さない会」サポーターにしていくことも視野に入れつつ、これからも着実な活動を続けていきます。

御所市柳原婦人会

「できることをコツコツと」 長年続ける環境美化活動で 地域をきれいに！

御所市柳原婦人会 会長

徳井 良子さん (写真:前列中央)

同婦人会前会長・奈良県地域婦人団体連絡協議会 前会長

中島 祐子さん (写真:後列右)



地域環境のために協力し合う「御所市柳原婦人会」のメンバー

**地道な活動が地域を変える！
ゴミを捨てにくい環境づくり**

平成30年度に「きれいな奈良県づくり功労賞」(川のきれいな化部門)を受賞した「御所市柳原婦人会」。御所市柳原地区の周辺を流れる「住吉川」の清掃活動や、柳原自治会館周辺などにおける植栽活動に長年取り組んだことが高く評価されました。現在は、会長の徳井良子さん、前会長の中島祐子さんが中心となって、活動を行っています。

住吉川周辺の清掃を行うのは、月に一回。メンバー10人が班に分かれ、約2時間ごみを拾います。

「毎回ごみ袋3袋分くらいのごみが集まります。以前はタバコの吸い殻でいっぱいだった場所も、最近は吸い殻を見かけなくなり、ごみを捨てにくい環境ができています。私たちの活動を見て、地域の方や周辺道路を利用

みんなで手分けして、
効率良く行う「川や道路の掃除」

維持・管理しやすいように丁寧に行う
「花のプランターづくり」



する方、一人ひとりが自分の姿勢を正していただいているのであれば、長く活動を続けてきてよかったなと思います。会長の徳井さんは、活動のやりがいについて笑顔で話します。

**活動が長続きする秘訣とは？
長年の経験から生まれる工夫**

柳原自治会館周辺などに、彩り豊かな「花のプランター」を配置し、丁寧な維持・管理を続けることも「きれいな奈良県づくり功労賞」受賞につながりました。長年会長を務めた中島さんが、婦人会を運営する上で大切にしてきたのは、活動を長く続けられる体制づくり。

「現在、メンバーの平均年齢は70歳を超えています。1年を通して、全員が毎日水やりをするのは大変です。そこで冬場は回数を減らし、2〜3日に1回

のペースで水やりをできるように、当番を決めています。花の種類についても、長年の経験から、長持ちするものや寒さに強いものがわかるようになってきました。

メンバーが無理せずできる活動を続けることで、楽しみながら取り組める体制が築き上げられました。

**全国組織から得る情報を活用
今後の社会に必要な考え方**

前会長の中島さんは、奈良県地域婦人団体連絡協議会会長も長く務め、地域のために尽力してきました。

「御所市柳原婦人会が所属する『全国地域婦人団体連絡協議会』は、ただのおばちゃんの団体ではありません。社会にある幅広い問題について考え、行動している組織です。ここに所属することで、さまざまな問題に対するアイデアや解決策などの情報を得られます。その情報を有効活用しながら、これからもこの会を続けていきたいです」。

若い世代のメンバーがいない中でも、楽しく活動続ける「御所市柳原婦人会」の皆さん。これからの時代、「今できることをコツコツ続ける活動」は、地域に根ざす団体のお手本になると感じました。



地域で取り組む「大和川のきれい化」

～奈良モデルによる水質改善の取組ときれいな水辺空間づくり～

県では、平成29年度より、大和川の水質の全国ワースト上位ランキング脱却に向け、水質改善の遅れている支川（高田川・土庫川・葛城川・三代川・岡崎川）を対象に、流域の自治体や団体等と連携・協働しながら水質改善、きれいな水辺空間づくりに取り組んでいます。

1 大和川重点対策支川部会（大和高田・広陵エリア）での取組

高田川・土庫川・葛城川を対象に、大和川重点対策支川部会（大和高田・広陵エリア）では、平成30年度に水質改善・きれいな水辺づくりの実践計画を策定し、取組を進めています。

大和川水質マップ（平成29年度）



汚れている ← → きれい



ガールスカウト奈良県第52回の清掃活動（H30. 10 高田川）

水質改善に向け、昨年度は大和高田市広報誌「やまとたかだ」や奈良県広報誌「県民だより」において、下水道への接続、浄化槽の維持管理、日常生活でできる水質改善策についての記事を掲載するとともに、職員が自治会等を訪問し、啓発チラシの配布や水質改善についての出前講座を行うなど、普及・啓発活動に取り組みました。

また、地域の子ども会や自治会をはじめ、現在14団体が当エリアで清掃や植栽活動などを行っており、徐々にきれいな水辺空間づくりの活動が広がっています。

今後も自治体と団体が連携・協働しながら川のきれい化を進めていきます。

2 大和川重点対策支川部会（大和郡山・斑鳩・安堵エリア）での取組

（1）県・市町の連携による現状分析・課題の洗い出し

三代川・岡崎川流域を対象に、汚れた原因を調べるため、流域の自治体である大和郡山市・斑鳩町・安堵町と連携・協働しながら、下水道の接続状況や浄化槽の利用状況等についてデータ分析を行いました。

その結果、三代川流域の斑鳩町や岡崎川流域の安堵町において下水道への接続率が60～70%に留まり、エリアによっては整備された下水道が十分利用されていないことがわかりました。

また、三代川流域は流域人口の約40%、岡崎川流域は安堵町・斑鳩町エリアで流域人口の約30%が単独浄化槽やくみ取り便所（※これらの世帯からの生活排水はそのまま川に流れ込む）を利用しており、県全体値の17%を大きく上回っていました。

このことから、大和高田・広陵エリアと同様に、下水道への早期接続や浄化槽の適正な維持管理等につい

て、より一層促進していく必要があります。

（2）大和川重点対策支川部会（大和郡山・斑鳩・安堵エリア）の設置

地域ぐるみで川を汚さない生活スタイルを実践していくため、今年1月、新たに県・流域の自治体、自治会等で構成する「大和川重点対策支川部会（大和郡山・斑鳩・安堵エリア）」を立ち上げ、7月には実践計画を策定しました。実践計画では、国の環境基準値まで水質改善すること、地域ぐるみによる親しみのあるきれいな水辺空間をつくることを目標に掲げ、取組を進めていきます。

（県環境政策課・河川課・下水道課）



大和川重点対策支川部会（大和郡山・斑鳩・安堵エリア）（R1.7）

「地域の河川サポート事業」参加団体募集!

～河川美化活動を支援します～

地域による河川美化活動を育成し、憩いと潤いのある河川区間を創出するため、地域住民の皆様が主体的に実施される河川美化活動(河川の清掃・草刈・花の植栽等)を支援します。

3つのプログラムがあります。活動内容にあったプログラムでご参加ください!

憩いの川づくりプログラム



内 容 草刈り
要 件 1回の参加人数10人以上
延長100m以上、
刈り取り高10cm以下
支援内容 面積に応じた報償金の支給
(㎡×9円)
傷害・賠償責任保険の加入
看板の設置

彩り花づつみプログラム



内 容 花の植栽・維持管理
要 件 1回の参加人数3人以上
支援内容 面積に応じた報償金の支給
(㎡×320円)
傷害・賠償責任保険の加入
看板の設置
花苗等の物品の支給

ボランティア支援プログラム



内 容 清掃
(軽微な草刈りを含む)
要 件 1回の参加人数5人以上
年間1回以上、延長50m以上
支援内容 報償金の支給または、
傷害・賠償責任保険の加入

詳しくは県河川課河川環境・水防係までお問い合わせください。

お問い合わせ先 奈良県河川課 TEL.0742-27-7504 URL. <http://www.pref.nara.jp/17237.htm>

第59回 下水道の日

県内4ヶ所の浄化センターにおいて、下水道施設の見学会と楽しい無料イベントを開催します。

開催
期間

2019年

9月7日(土) ▶ 9月8日(日)

毎年9月10日は「下水道の日」です



下水道マスコットキャラクター
「スイスイ」

開催
場所

浄化センター (7日・8日実施)

大和郡山市額田部南町160(近鉄ファミリー公園前駅下車)
TEL.0743-56-2830

第二浄化センター (8日のみ実施)

広陵町萱野460(近鉄箸尾駅下車)
TEL.0745-56-3400

宇陀川浄化センター (7日のみ実施)

宇陀市榛原福地28-1(近鉄榛原駅下車)
TEL.0745-82-5725

吉野川浄化センター (7日のみ実施)

五條市二見5丁目1314(JR大和二見駅下車)
TEL.0747-22-8631

詳しくはホームページにて

<http://www.pref.nara.jp/4760.htm>

下水道の日 なら

検索



主催：大和川上流・宇陀川流域下水道協議会 / 吉野川流域下水道協議会

きれいに暮らす

奈良県スタイルジャーナル 第9号

2019年8月発行

発行 / 奈良県くらし創造部 景観・環境局 環境政策課

〒630-8501 奈良市登大路町30
TEL.0742-27-8663 FAX.0742-22-1668

奈良県エコキャラクター
「な～らちゃん」

